

NSK

日本精工株式会社

2022年3月期決算 新中期経営計画



Change & Go Beyond

MTP2026

2022年5月13日

代表執行役社長・CEO 市井 明俊

本資料には、業績見通し及び事業計画等を記載しています。
それらにつきましては、各資料の作成時点における経済環境や事業方針などの
一定の前提に基づいて作成しています。従って、実際の業績は、様々な要因により
業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

Copyright NSK Ltd. All Rights Reserved.

- 1. 2022年3月期実績**
- 2. 2023年3月期予想**
- 3. 新中期経営計画 MTP2026
(2022~2026年度)**

(補足資料)

- 1. 2022年3月期実績**
2. 2023年3月期予想
3. 新中期経営計画 MTP2026
(2022~2026年度)

(補足資料)

2022年3月期 通期実績サマリー①

事業環境

- 産業機械：工作機械、半導体製造装置向けを中心に堅調に推移
- 自動車：サプライチェーン問題の長期化 生産調整が継続
- 鋼材や海上運賃などのインフレ継続
- 新型コロナリスクに加えて地政学リスクが顕在化 ● 為替相場では円安進行

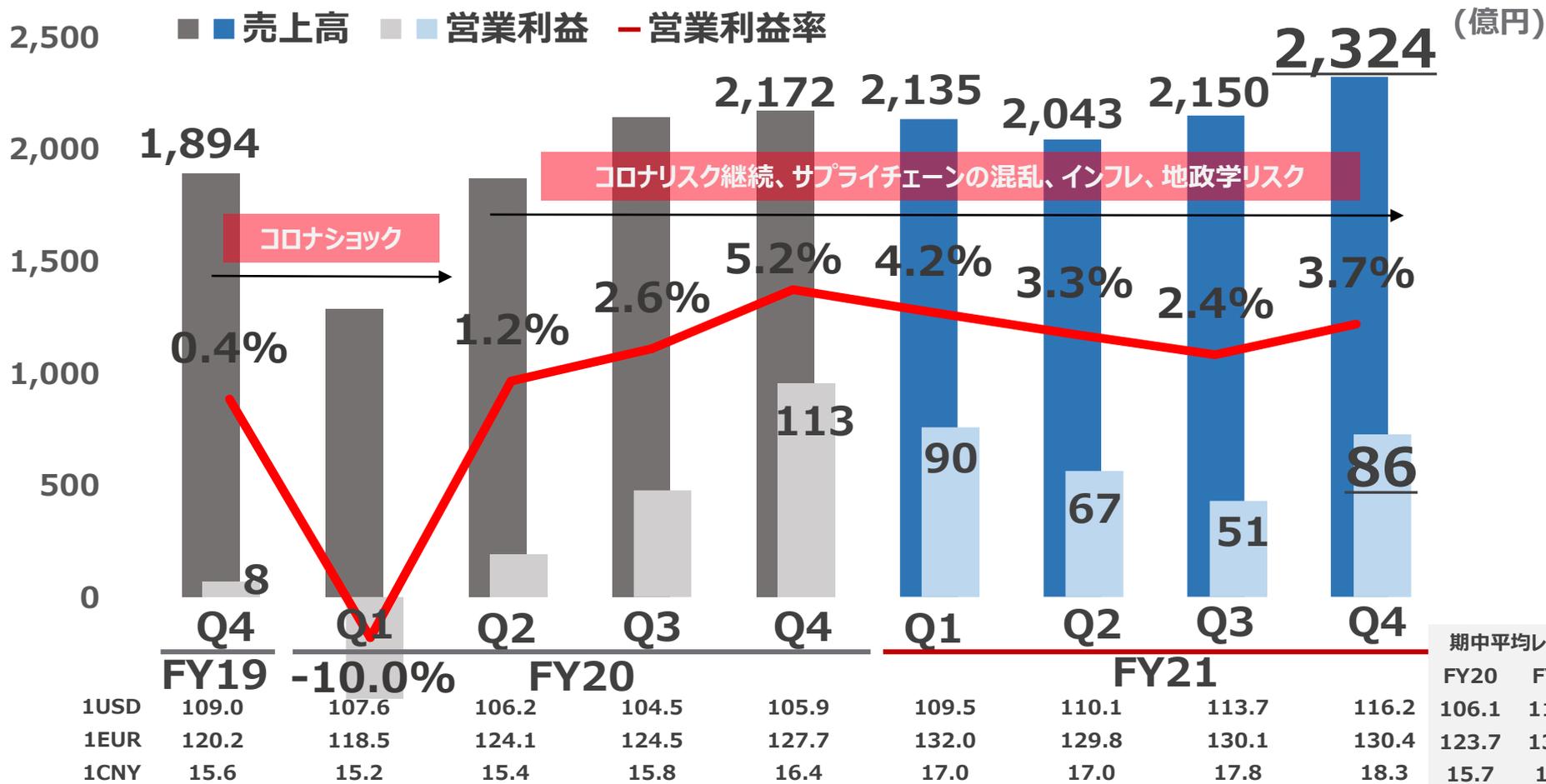
通期実績サマリー

(億円)	FY20 実績	FY21 実績	増減額	対前期 (為替影響)	伸び率	FY21予想 1月時点
売上高	7,476	8,652	+1,176	(+355)	+15.7%	8,600
セグメント利益 ※ (対売上高率)	49 (0.7%)	288 (3.3%)	+239	(+85)	5.9倍	300 (3.5%)
営業利益 (営業利益率)	64 (0.9%)	294 (3.4%)	+231	(+85)	4.6倍	300 (3.5%)
税引前利益	59	295	+236	-	5.0倍	300
当期利益 (親会社所有者帰属)	4	166	+162	-	-	195

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

- 配当金 年間 **25円/株** (中間10円/株、期末15円/株) 配当性向 **77.3%**

2022年3月期 通期実績サマリー②



● FY21Q4 ロシア・ウクライナ危機の影響で一過性費用を計上

● FY21通期 YoY増収増益 前半コロナショックの反動増 産機ビジネス堅調

主要指標 () 内は前年実績

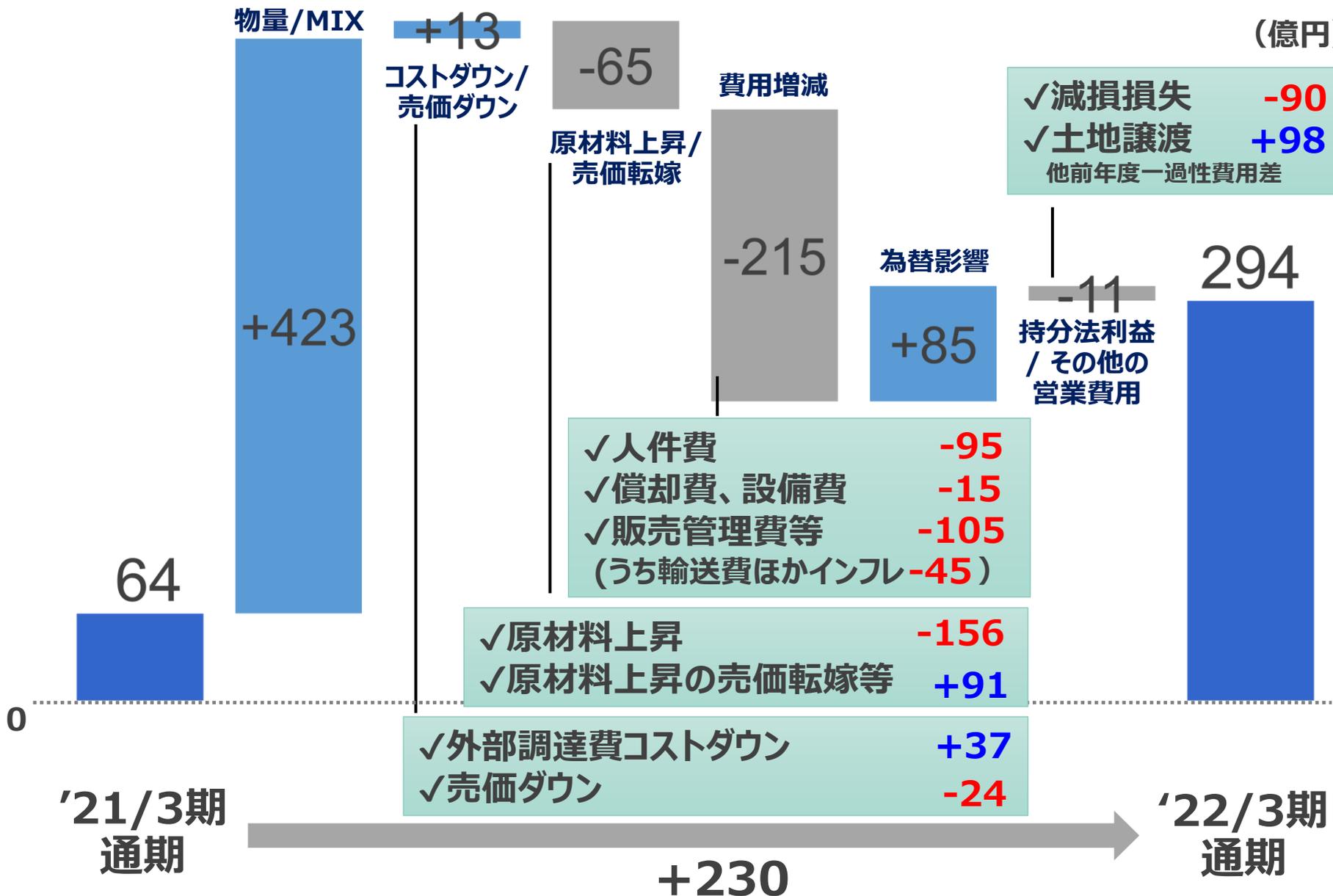
✓ ROE 2.8% (0.1%)

✓ ネットDEレシオ 0.27倍 (0.28倍)

✓ 棚卸資産回転数 5.0回転 (4.9回転)

営業利益 増減内訳 ('21/3期通期 ⇒ '22/3期通期)

(億円)

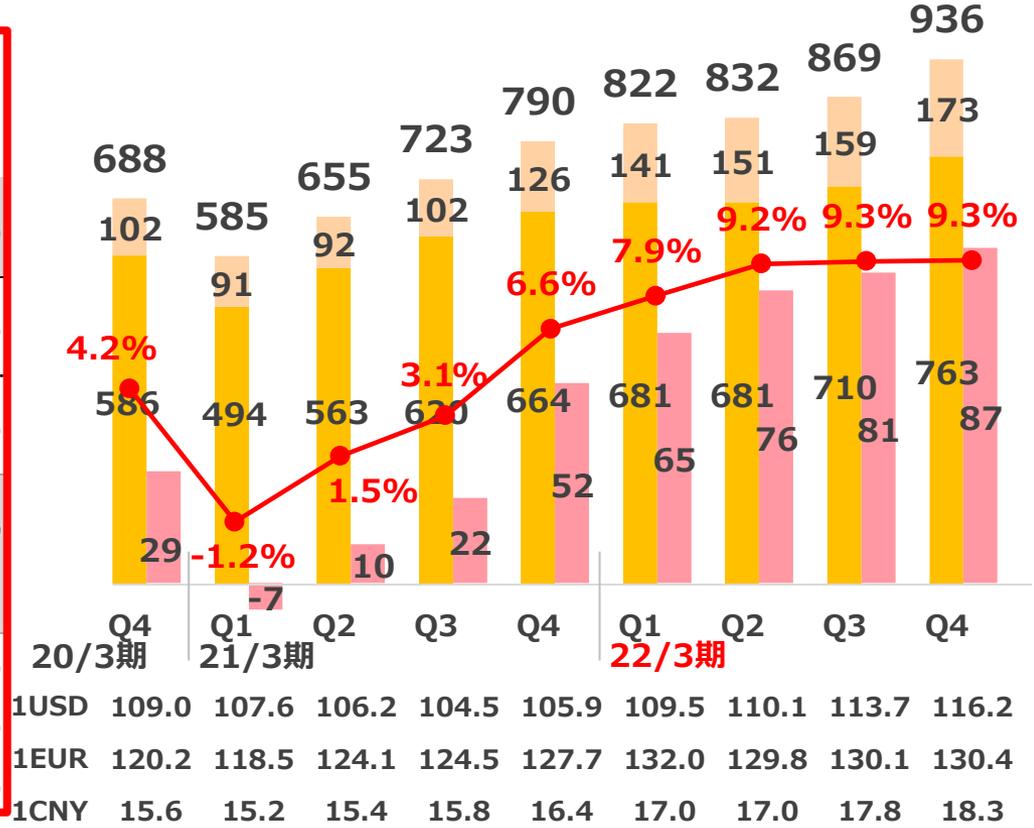


産業機械事業

(億円)

	21/3期 通期実績	22/3期 通期実績	対前期 増減額 (為替影響)	対前期 伸び率
売上高	2,752	3,458	+706 (+160)	+25.6%
産業機械軸受	2,341	2,835	+493	+21.1%
精機製品	411	623	+212	+51.6%
セグメント利益	77	309	+232	+302.0%
(対売上高率)	(2.8%)	(8.9%)		
換算レート1USD	106.1	112.4	+6.3	+6.0%
〃 1EUR	123.7	130.6	+6.9	+5.5%
〃 1CNY	15.7	17.5	+1.8	+11.7%

■ 産軸 ■ 精機 ■ セグメント利益 ● 利益率



● 対前年増収増益 売上高は過去最高を更新

- ・ 工作機械、半導体製造装置向け：強い需要が継続 過去ピーク超えを牽引
- ・ インフラ：風力、鉄道向けは依然横ばい
- ・ E&E：自動車向けは減産影響も受けたが家電向け等が支えとなり対前期増収

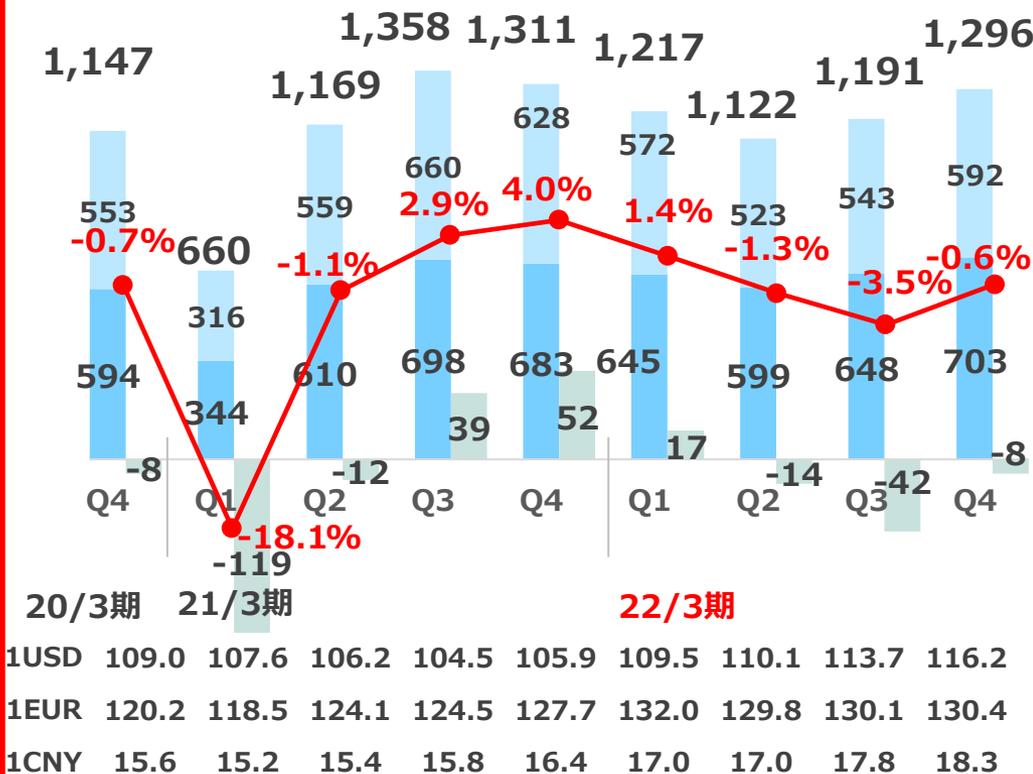
● Q4の利益率はロシア・ウクライナ危機の影響もあり10%に届かず

自動車事業

(億円)

	21/3期 通期実績	22/3期 通期実績	対前期 増減額 (為替影響)	対前期 伸び率
売上高	4,497	4,825	+328 (+180)	+7.3%
自動車軸受	2,335	2,596	+261	+11.2%
自動車部品	2,162	2,230	+67	+3.1%
セグメント利益 (減損除く)	-40	-47	-7	-
(対売上高 率)	(-0.9%)	(-1.0%)		
営業利益※ (減損含む)	-40	-138	-97	-
(対売上高 率)	(-0.9%)	(-2.9%)		
換算レート1USD	106.1	112.4	+6.3	+6.0%
〃 1EUR	123.7	130.6	+6.9	+5.5%
〃 1CNY	15.7	17.5	+1.8	+11.7%

■ 自軸 ■ 自部品 ■ セグメント利益 ● 利益率



※セグメント利益には減損(その他営業費用)が含まれないため、自動車事業では営業利益を表示しています。

- グローバル自動車生産台数 実績 74M台※当社調べ (YoY -4%)
- サプライチェーン問題の長期化、インフレ影響が大きく 対前期増収も減益
- Q4の営業利益は、ロシア・ウクライナ危機の影響で赤字が継続

1. 2022年3月期実績
- 2. 2023年3月期予想**
3. 新中期経営計画 MTP2026
(2022~2026年度)

(補足資料)

2023年3月期 通期予想

事業環境/予想前提

- 鋼材や海上運賃等のインフレとサプライチェーン問題は継続
- 産業機械事業：工作機械、半導体の需要は引き続き堅調
- 自動車事業：自動車生産台数 年間77M台（前期 74M台）
- 足元の中国ロックダウンの影響は予想に織り込み
- 為替レート前提 USD 120円 EUR 130円 中国元 19.0円

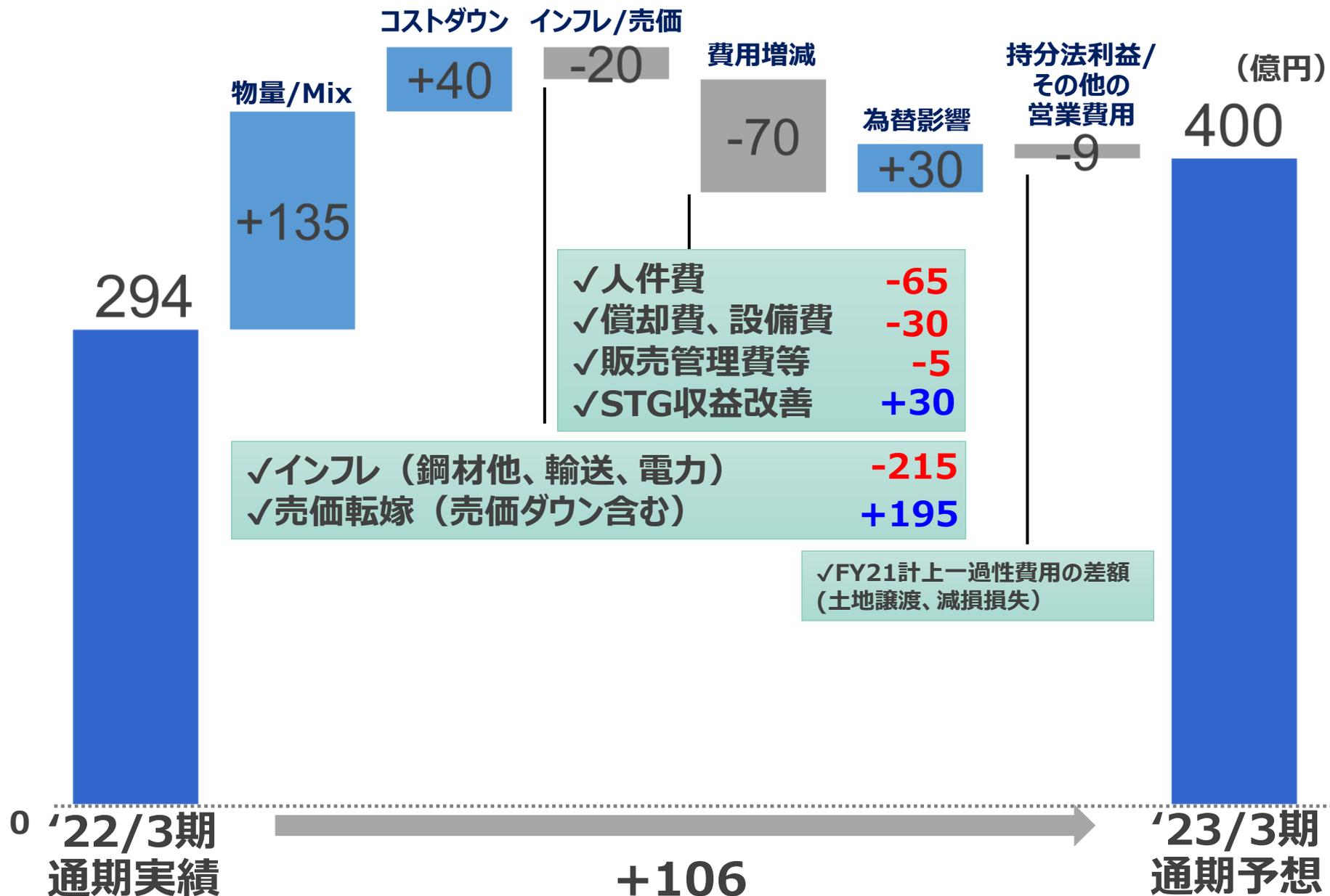
2023年3月期 通期予想

(億円)	22/3期 実績	23/3期 予想	対前期 増減額	伸び率
売上高	8,652	9,400	+748	+8.6%
セグメント利益 ※ (対売上高率)	288 (3.3%)	405 (4.3%)	+117	+40.7%
営業利益 (営業利益率)	294 (3.4%)	400 (4.3%)	+106	+35.9%
税引前利益	295	400	+105	+35.5%
当期利益(親会社所有者帰属)	166	270	+104	+62.8%

※セグメント利益：営業利益からその他の営業損益（為替差損益ほか）を除いたもの

- 配当金 **年間30円/株**（中間15円/株、期末15円/株） 配当性向 **57.0%**

営業利益 増減内訳 (22/3期 ⇒ 23/3期予想)



2023年3月期予想 セグメント別

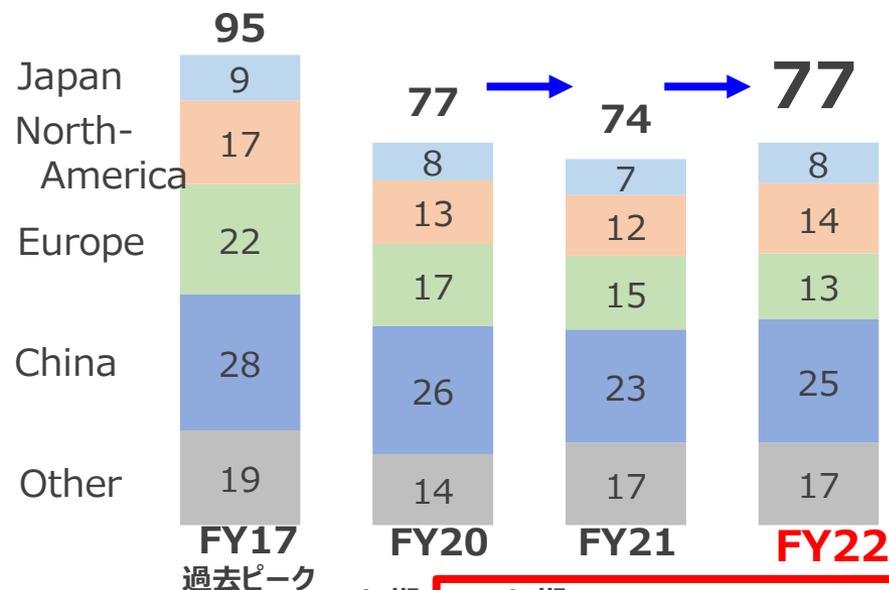
■ 産業機械事業

セクター別需要見通し

	FY21 2H vs FY21 1H	FY22 1H vs FY21 2H	FY22 2H vs FY22 1H
工作機械	→	→	→
半導体	↑	↑	↑
風力	→	→	→
鉄道	→	→	→
電機	↓	↑	→

■ 自動車事業

グローバル自動車生産台数 (百万台)



	22/3期 通期 <実績>	23/3期 通期 <予想>	対前期 増減額	対前期 伸び率
売上高	3,458	3,800	+342	+9.9%
産業機械軸受	2,835	3,080	+245	+8.7%
精機製品	623	720	+97	+15.5%
セグメント利益	309	380	+71	+22.8%
(対売上高率)	(8.9%)	(10.0%)		

	22/3期 通期 <実績>	23/3期 通期 <予想>	対前期 増減額	対前期 伸び率
売上高	4,825	5,210	+385	+8.0%
自動車軸受	2,596	2,950	+354	+13.6%
自動車部品	2,230	2,260	+30	+1.4%
セグメント利益 (減損除く)	-47	0	+47	-
(対売上高率)	(-1.0%)	(0.0%)		

✓ 想定されるリスク

1. さらなるインフレ、中国ロックダウン、地政学リスクによる景気後退のリスク
2. サプライチェーン問題の長期化

＞ 生産体制や在庫の機敏・迅速なコントロール

✓ 経営課題の推進

1. 鋼材、海上運賃などインフレの売価反映
2. 産業機械事業：供給体制の強化と生産性向上
3. 自動車事業：ステアリング事業の構造改革推進

1. 2022年3月期実績

2. 2023年3月期予想

3. 新中期経営計画

(2022~2026年度)



Change & Go Beyond

MTP2026

(補足資料)

第6次中期経営計画振り返り

- 産機は過去レコード達成も2桁利益率には届かず、自動車は2期連続の赤字
半導体・工作・ロボット市場で成長、自動車市場縮小、電動化加速、EPS受注未達
- コロナ不安継続、急激なインフレ、サプライチェーンの混乱 ■ 財務安定性は格付A維持

第6次中期経営計画(FY19~FY21) 経営目標

評価 ※E&E調整後 参考値

				5次中期 FY18 9,914億円 産機 3,280※	FY19 8,310	FY20 7,476	FY21 8,652 (-13%) 3,458 (+5%)
成長性	売上高/ 成長率	売上成長 CAGR 2% 1兆円	産業機械： 市場の伸びを上回る成長 自動車軸受： グローバル自動車生産台数の 伸びを上回る成長 自動車部品： STGビジネス再成長に 向けた受注獲得	自動車 6,310※			
収益性	営業利益率	8%以上	安定的な収益力の確保	8.0%	2.8%	0.9%	3.4%
効率性	ROE	10%以上	株主資本コストを上回るROE	10.4%	3.3%	0.1%	3.4%
安定性	剰D/E 自己資本比率	0.3倍 50%	格付Aを維持	コロナ禍においても格付Aを維持			
株主還元	配当性向 自己株式取得	30~50% 40円/株以上	安定的な配当継続 自己株式取得 機動的な資本政策	安定配当を継続			
設備投資	設備投資額	3年合計 1,800億円	持続的成長を支える投資	事業環境に合わせてコントロール 3年合計 1,445億円			
技術開発	技術関連投資	対売上高 3~4%	成長のための技術開発を継続	3~4%で推移 300億円/年			

MTP2026の全体像と位置づけ

MTP2026

持続的成長を可能にする企業基盤の再構築

第6次中計

FY19-20-21

次の成長に向けた
事業基盤とリソース強化

成長への新たな仕掛け
経営資源の強化
環境・社会への貢献

事業環境の変化

FY22 — 24 — 26

「変わる 超える」で 新しい姿の1兆円企業へ

経営課題の取り組みを加速

ESG経営

収益を伴う成長



経営資源の強化

Post2026

100年、
1000年先も
選ばれ続ける

No.1の品質と信頼
社会課題の解決
技術革新へ貢献

自動車市場の停滞
カーボンニュートラル
サプライチェーンリスクの顕在化
国際社会の分断
インフレによるコスト上昇

3.4%

営業利益率

7~8%

10%

電動化・自動化・
デジタル化の進展
クルマのEV化、半導体・
ロボット需要の拡大
地球環境負荷の低減

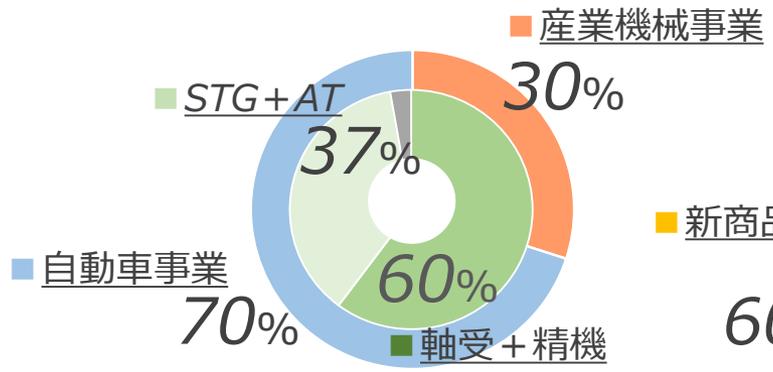


新しい姿の1兆円企業 ポートフォリオ変革/営業利益率10% ROE 10%

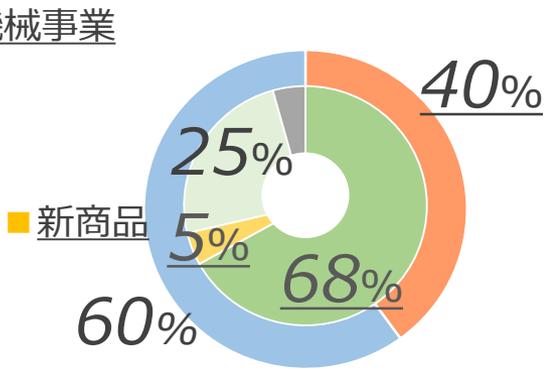
» **ポートフォリオ変革** ① 産機ビジネス拡大 ② 軸受+精機で稼ぐ ③ 新商品を育てる

Bearings & Beyond

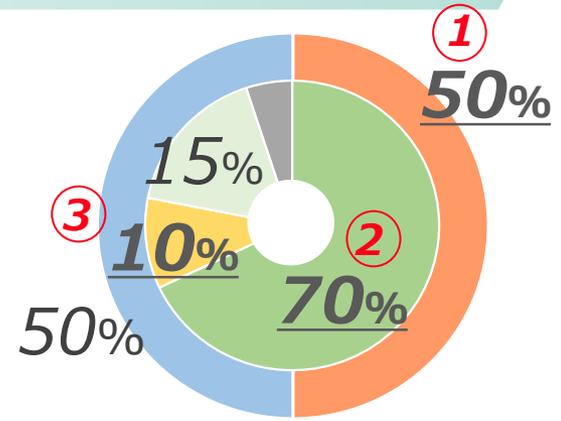
FY17
売上高1兆円



MTP2026
売上高1兆円



Post2026



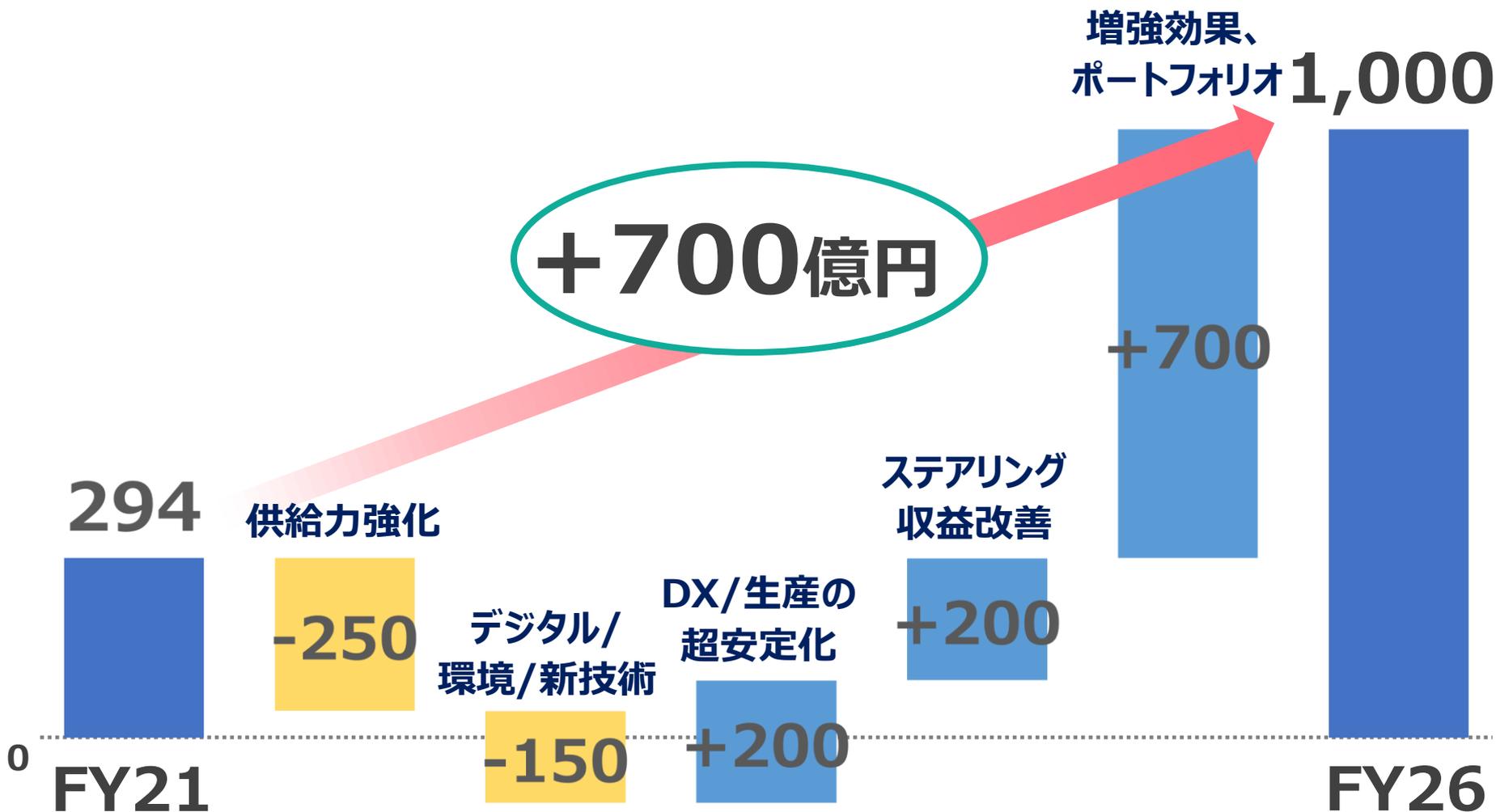
» **経営目標**

		FY21	FY26	FY21→26
成長性	売上高/成長率	8,652億円	1兆円以上	CAGR +5%/年
収益性	営業利益(率)	294億円 (3.4%)	1,000億円 (10%)	+700億円 +6.6ポイント
効率性	ROE	2.8%	10%	+7.2ポイント
	ROIC	1.9%	8%	+6.1ポイント
安定性	ネットDEレシオ 自己資本比率	0.3倍 50.0%	0.4倍以下 50%	格付Aの維持

FY26の為替レート
→FY21実績の
平均レートを使用
FY21
USD 112円
EUR 131円
CNY 17.5円

(億円)

MTP2026 営業利益 増減内訳 (FY21⇒FY26)



労務費の上昇は生産性の改善で、購入品のインフレーションは売価反映とコストダウンでオフセットする前提

MTP2026 重要課題

トライボロジーとデジタルの融合による価値創出で
持続可能な社会の発展に貢献する 必要・信頼される企業をめざす

ESG経営

社会から 必要・信頼され
選ばれる企業であり続ける

- ✓カーボンニュートラルの推進
 - »FY26 -50% FY17比
(スコープ1、2)
- ✓働く環境づくり
 - »健康経営優良法人
ホワイト500 継続選定



経営資源の強化

デジタルの力で経営資源を強化し、
事業変革を起こし続ける

- ✓デジタル技術の活用 » 生産性1.5倍
- ✓生産の超安定化
- ✓多様なキャリアの開発・支援

収益を伴う成長

事業環境の変化の中でも、
持続成長可能な事業基盤が
確立されている

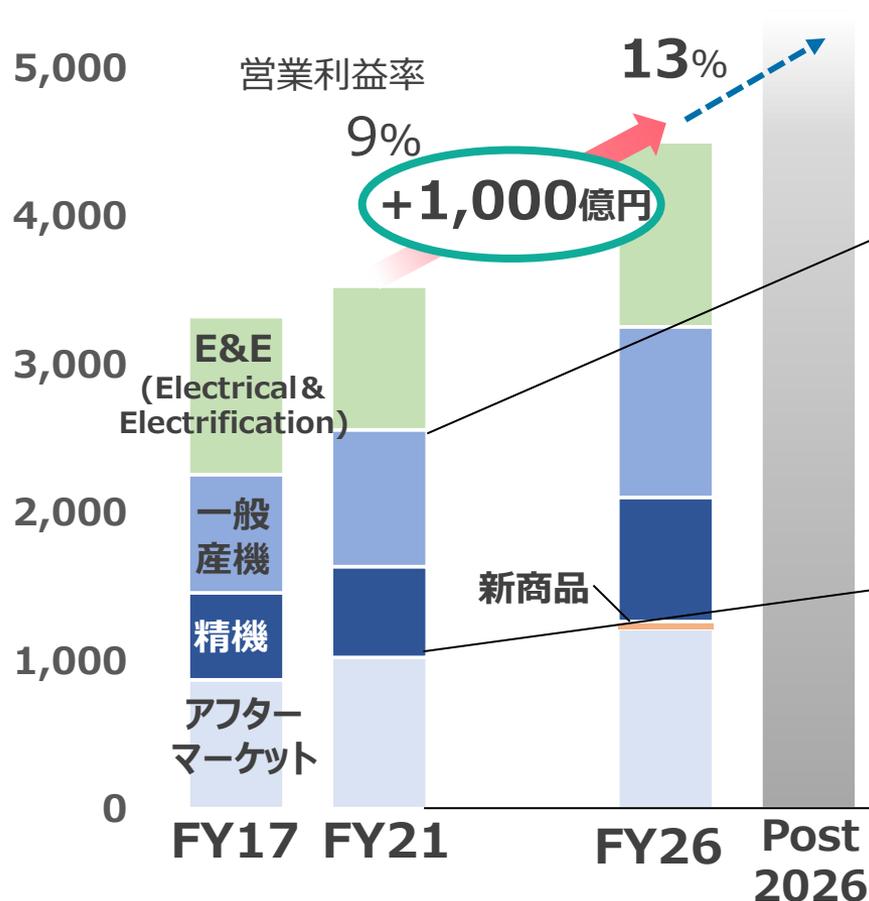
- ✓ *Bearings & Beyond*
 - »産機ビジネス拡大
 - »軸受+精機で稼ぐ
 - »新商品を育てる
- ✓ステアリング事業の構造改革
- ✓提携とM&A

収益を伴う成長 – 産業機械事業 –

> 産業機械事業のビジネス拡大

- 電動化、自動化、デジタル化、環境市場の拡大を狙う
- 供給力の強化と技術サービス体制の強化を進める
 - » FY26目標 売上 **4,500**億円 / 営業利益率 **13%**

産機売上成長イメージ (億円)



事業拡大に向けたセクター別取り組み

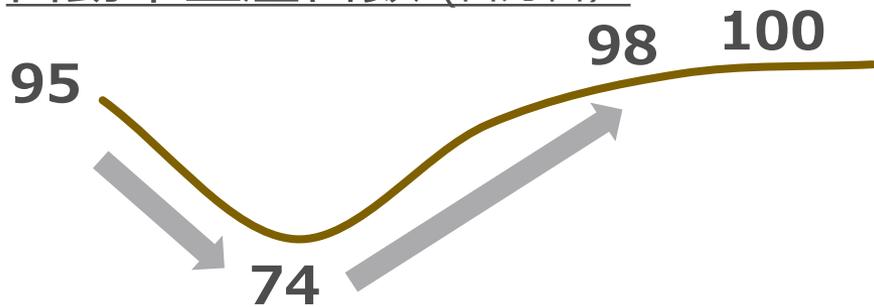
1. 電動化、5G等小型モーター向け需要増
 - +300億円
 - » 高精度、静音化
 - » タイムリーな能力増強、新生産拠点
 2. 自動化、半導体需要拡大と加工の高度化
 - +300億円
 - » 高速化、高精度、信頼性
 - » 供給力強化と新商品の開発
 3. 風力発電・鉄道・燃料転換
 - +100億円
 - » 耐久性、信頼性、高速化
 - » 供給力強化(瀋陽、富山)
 4. ビジネスモデルの変革による拡販
 - +250億円
 - » CMSやリコンディショニングを活用したPLMモデルの確立
- ※PLM = 製品ライフサイクル管理

収益を伴う成長 –自動車軸受事業–

> 自動車の電動化へ対応

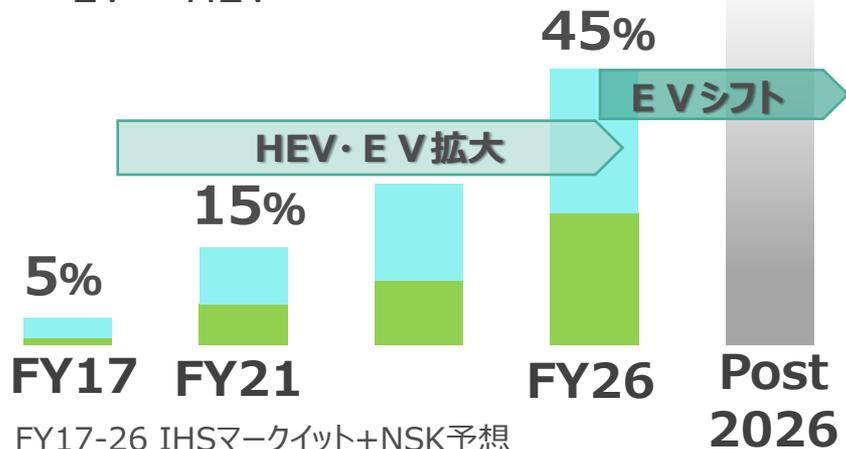
- ICE向けの売上減少以上に電動車向けの売上を拡大させ過去ピークを超える
- 低トルク・高速回転・軽量化での高シェア受注と将来に向けた新商品拡大を目指す
 »FY26目標 売上 **3,400**億円 / 営業利益率 **8%**

自動車生産台数 (百万台)



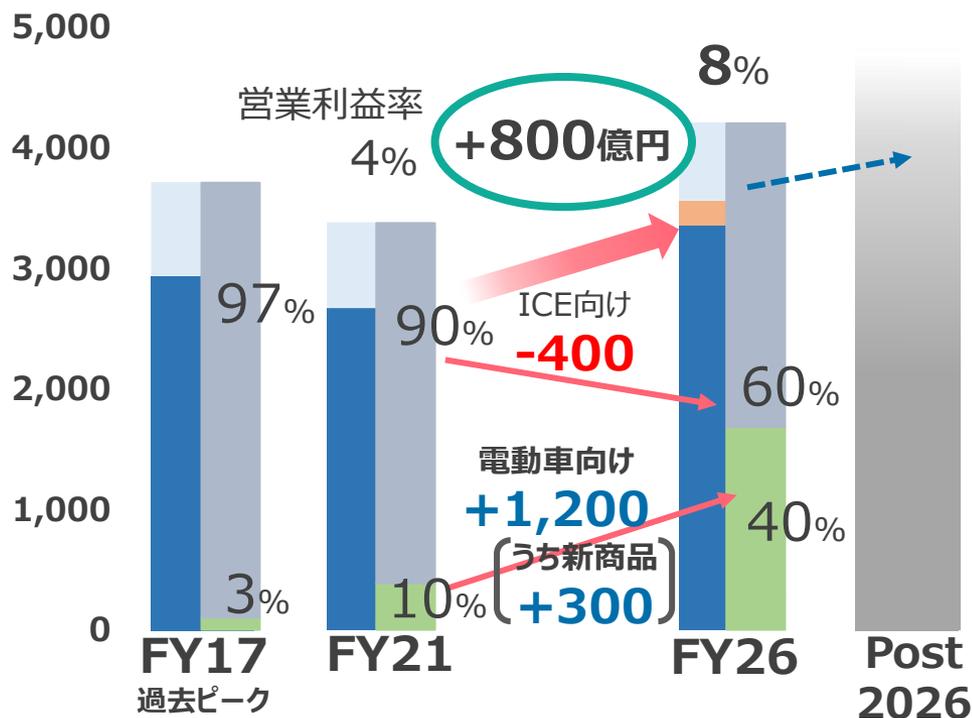
電動車比率

■ EV ■ HEV



自動車軸受売上成長イメージ (億円)

左グラフ ■ 自動車軸受 ■ 新製品 ■ AT(参考表示)
 右グラフ ■ ICE向け ■ 電動車向け(新商品含む)



収益を伴う成長 –自動車部品事業–

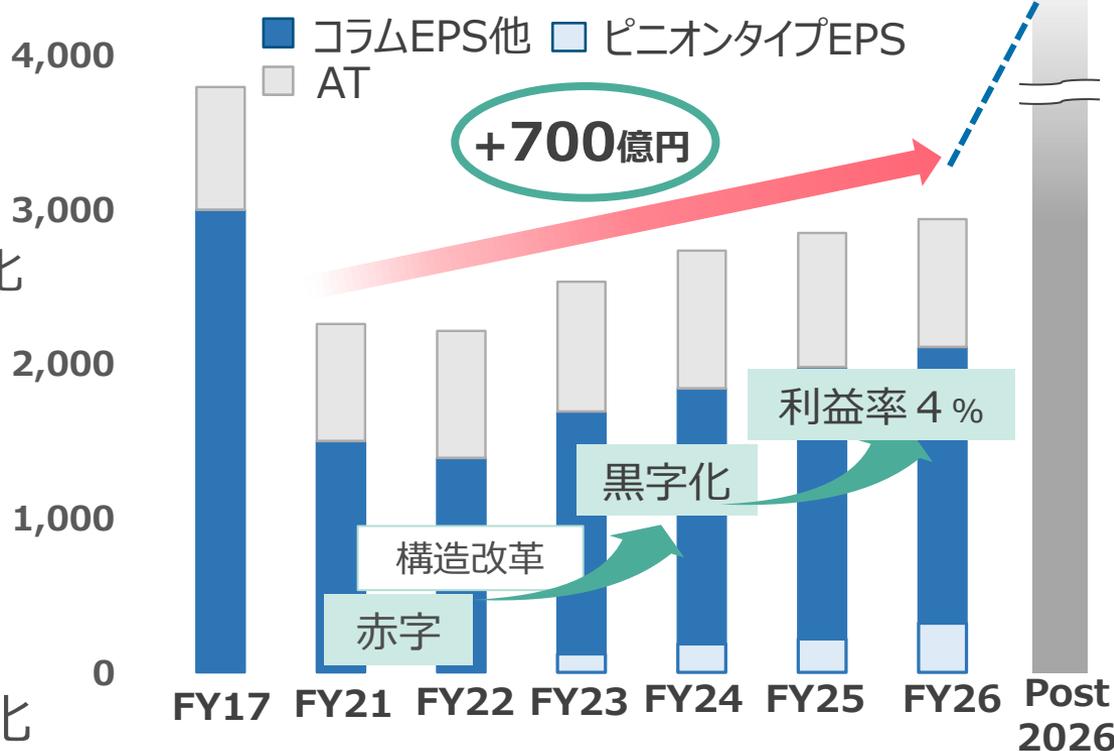
> ステアリング事業の構造改革と提携・M&A

- 事業構造改革による物量と収益力の回復 **FY23後半 黒字化 FY26 利益率 4%**
- 提携・M&Aの実現で収益ある成長への移行を目指す
 »FY26目標 売上 **2,900**億円 / 営業利益率 **4%**

ステアリング事業回復に向けた施策

- ✓ 受注拡大
 - »ピニオンタイプEPS
MEB(VW社EV向け)案件の横展開
 - »コラムタイプEPS
小型化・軽量化・静音性等で差別化
- ✓ 事業構造改革
 - »生産拠点の再編
 - »人員再配置
- ✓ 提携・M&Aの実現
 - »事業規模の確保
 - »フルラインナップによる競争力強化

自動車部品事業の回復イメージ (億円)



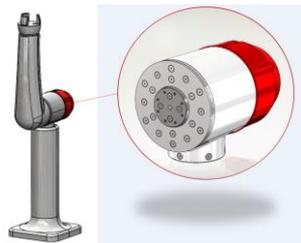
収益を伴う成長 – 新商品を育てる –

■ 産業機械事業

自動化・電動化/ 予知保全技術の浸透

エネルギー転換の加速

“ロボット用
アクチュエータ”



“アクティブキャスタ”

サービスロボット/モビリティ/搬送ロボットetc

“CMS拡大”
BKV社とのシナジー



水素関連ビジネスの広がり

売上高目標
500億円

産業機械アクチュエータ拡販

電動油圧ブレーキシステム用ボールねじ拡大

“1,000万本/年”

FY26

Post2026

“トラクションドライブ”減速機”
“トルクセンサ”

■ 自動車事業

HEV・EVが拡大

EVヘシフト

EV走行性能向上

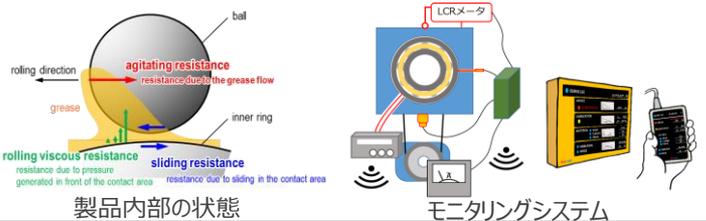
ESG経営 -カーボンニュートラルの推進-

- 「つくる」と「つかう」でカーボンニュートラル社会の実現を目指す
- 新目標 **2026年度 Scope1+2 CO2排出量削減 -50%** (2017年度比)
- 2035年度 Scope1+2 カーボンニュートラル達成**



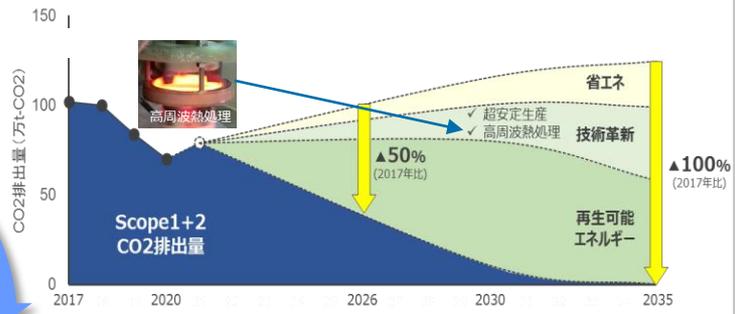
トライボロジー技術による環境貢献

トライボロジー技術を深化し、さらなる省エネ化を実現
 例えば、電気回路を利用して軸受内部を可視化する
 「電気インピーダンス法※」を開発 ※日本トライボロジー学会論文賞受賞
 ⇒ 油膜を極限まで薄くすることで低トルク化に貢献



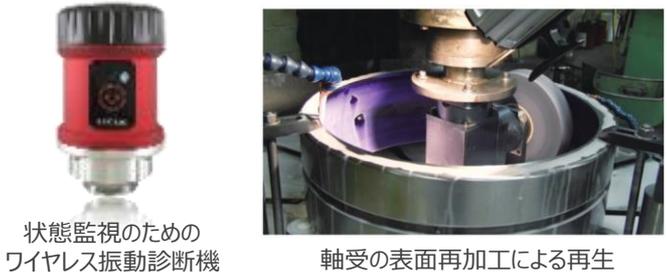
事業活動のCO2排出量削減

省エネ、技術革新、再生可能エネルギーの3つの
 施策で事業活動で発生するCO2の削減を推進



CMS・リコンディショニングサービスの活用による環境貢献

製品の寿命診断や状態監視システム (CMS)、
 修復を行うことで、信頼性の向上と省資源化を実現



技術開発

生産

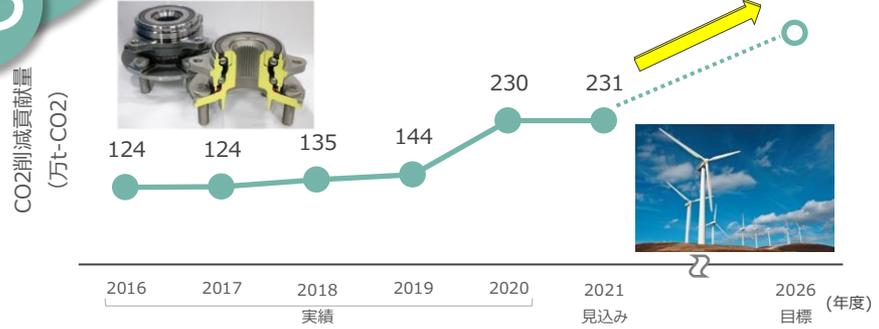
サービス

商品

つかう

商品による環境貢献

環境貢献型製品の提供により
 社会全体のCO2排出量削減に貢献



MTP2026 キャッシュ・アロケーション

■ 持続可能な社会への貢献と不断の企業価値の向上

収益を伴う成長
ROE 10%以上
ROIC 8%以上

キャッシュの創出
営業利益率10%
減価償却費
投資有価証券 売却
ほか 低収益資産の縮減

持続的成長のための投資

経営資源の強化

✓ 設備投資 3,500億円/5年間

E S G 経 営	» 経常投資 2,000億円 能力・基盤維持	» 増強投資 1,000億円 産機拡大・超安定化	» 新技術 500億円 DX・新製品
----------------------------------	------------------------------	--------------------------------	--------------------------

✓ 技術関連費用 3~4%/売上高

✓ 企業価値を高める無形資産への投資

人的資本への投資	人材獲得・育成
知的資本への投資	知的財産の活用
IT・ソフトウェア投資	IoT DX

安定的な利益還元継続

✓ 配当性向 30~50% ✓ 総還元性向 50%
中計期間累計

✓ 自己株式取得 (機動的に実施)

1. 2022年3月期実績
2. 2023年3月期予想
3. 新中期経営計画 MTP2026
(2022~2026年度)

(補足資料)

MTP2026 NSKを取り巻く事業環境

■ 社会環境の変化によって社会ニーズと技術の変革がもたらされる中、電動化や自動化、デジタル、カーボンニュートラルといった成長領域で拡大を目指す

社会環境

- 環境問題
 - ・地球温暖化の抑制
 - ・環境負荷の低減
- コロナ感染症拡大
- 人口・労働問題
 - ・少子高齢化
 - ・労働人口減
- 資源問題
 - ・食料需要増加
 - ・水資源不足

社会ニーズ

- 低炭素化社会の実現 (カーボンニュートラル)
 - ・再生可能エネルギー拡大
 - ・モビリティの電動化
 - ・再生利用の拡大
- 社会がネットワークで繋がる世界
 - ライフスタイルの多様化
 - ⇒ 働き方・教育・生活など
 - ・医療高度化・感染予防
- 自動化・スマート化
 - ・自動運転・遠隔化
 - ・予防保全・状態監視
 - ・サービス/産業ロボット

技術の変革

- ・新エネルギー技術開発
- ・エネルギー利用技術の進化
- ・CO₂利用・貯蓄技術の開発
- ・電動化・蓄電池技術の進化
- ・省エネ技術の進化
- ・ロボットの進化
- ・医療、バイオ技術の進化

成長領域

新しい仕掛け

カーボンニュートラル

風力、太陽光、水素、波力
高効率モーター、流体

電動化

EV、FC、鉄道、建機、
農機、ドローン、射出

自動化・省人化

工作、ロボット(FA、医療)、
モーター(EV/産機)

情報・通信

半導体、ファンモータ

新市場

サービスロボット、水素、
小型変速機ユニット

CMS
アクチエータ



産業変革をもたらす基盤技術

- ◆ 高速・大容量通信インフラ ◆ デジタル技術の進化
- ◆ IoT/AI/Big dataや5G(→6G)

DX (Digital Transformation)

経営資源の強化 – デジタル技術の活用 –

- デジタル技術を有効に活用し、NSKの競争力の源泉である品質と技術、オペレーション力をさらに強化することで収益構造の転換につなげる。

NSKの強み



品質と技術

- 100年間で蓄積された市場実績や技術情報
- 営業・技術・生産人材の経験・知見に基づいた顧客要求への対応
- 優れた設備開発力、またその設備を長年使いこなす現場力、保全力



オペレーション力

- 客先との長年の信頼関係と蓄積された顧客情報
- グローバルなネットワークを活用した販売力
- 生産現場における継続的改善の取り組み（生産革新活動）
- 高水準のSPIマネジメントによる生産管理

デジタルの力でNSKの強みをさらに強化
(形式知化、効率化、迅速化)

✓生産の超安定化 ✓Bearings & Beyond ✓基盤システムの刷新

ESG経営

経営資源の強化

収益を伴う成長

「変わる 超える」：MTP2026経営課題実現のための人づくり

働く環境づくり

多様なキャリアの開発・支援

成長できる場(組織)づくり

多様な人材の採用・登用

- ・多様性(女性、外国人、キャリア等)
FY26 国内15% うち国内生産部門除く 35%
- ・なでしこ銘柄 継続選定

各取り組み実現のための人材活用

- ・教育制度の充実
カーボンニュートラル、DX、産機拡大・
自動車電動化対応、生産性向上、
開発力/品質向上

働き方改革の推進

- ・リモートワーク、多様な休暇・休職制度、
育児介護両立支援等
- ・健康経営優良法人ホワイト500 継続選定

人的資本の 価値最大化

デジタル人材の育成

- ・国内5000人、最終的にはグローバル
全社員を対象にした人材育成
- ・リーダー層のスキル育成 1200人

コミュニケーションの活性化・従業員エンゲージメント

「安定的な利益還元」の継続

第6次中計

- ・ 配当性向 30～50%
40円/株以上 (第6次中計期間)
- ・ 自己株式取得 機動的な資本政策
総還元性向 (3年間) 50%目安

MTP2026

- ・ 配当性向 30～50%
- ・ 総還元性向 50%程度
(MTP2026期間累計)
- ・ 自己株式取得 機動的に実施

安定的・継続的な配当の実施と 企業価値の向上により
TSR (株式トータルリターン) を拡大

補足. 事業セグメント別業績 (22/3期)

(億円)		21/3期			22/3期			対前期	
		前半	後半	通期	前半	後半	通期	増減額	伸び率
合計	売上高	3,159	4,317	7,476	4,178	4,474	8,652	+1,176	+15.7%
	セグメント利益	-130	179	49	162	125	288	+239	+488.4%
	(対売上高率)	(-4.1%)	(4.1%)	(0.7%)	(3.9%)	(2.8%)	(3.3%)		
	営業利益	-106	170	64	157	137	294	+231	+362.4%
	(営業利益率)	(-3.4%)	(3.9%)	(0.9%)	(3.8%)	(3.1%)	(3.4%)		
産業機械 事業	売上高	1,240	1,513	2,752	1,653	1,804	3,458	+706	+25.6%
	産業機械軸受	1,057	1,284	2,341	1,362	1,473	2,835	+493	+21.1%
	精機製品	183	228	411	292	332	623	+212	+51.6%
	セグメント利益	3	74	77	142	168	309	+232	+302.0%
	(対売上高率)	(0.2%)	(4.9%)	(2.8%)	(8.6%)	(9.3%)	(8.9%)		
自動車 事業	売上高	1,828	2,669	4,497	2,339	2,486	4,825	+328	+7.3%
	自動車軸受	954	1,381	2,335	1,245	1,351	2,596	+261	+11.2%
	自動車部品	875	1,288	2,162	1,094	1,135	2,230	+67	+3.1%
	セグメント利益	-132	92	-40	3	-50	-47	-7	-
	(対売上高率)	(-7.2%)	(3.4%)	(-0.9%)	(0.1%)	(-2.0%)	(-1.0%)		
	営業利益	-132	92	-40	3	-140	-138	-97	-
	(対売上高率)	(-7.2%)	(3.4%)	(-0.9%)	(0.1%)	(-5.6%)	(-2.9%)		
その他	売上高	181	249	429	295	302	597	+168	+39.2%
	営業利益	-2	12	10	17	6	23	+13	+132.9%
	(対売上高率)	(-1.4%)	(4.9%)	(2.3%)	(5.7%)	(2.0%)	(3.8%)		
売上高消去		-90	-113	-203	-110	-119	-229	-26	-
その他の営業損益/調整額		25	-8	17	-4	104	100	+83	-

補足. 事業セグメント別業績予想 (23/3期)

(億円)		22/3期 実績			23/3期 予想			対前期	
		前半	後半	通期	前半	後半	通期	増減額	伸び率
合計	売上高	4,178	4,474	8,652	4,500	4,900	9,400	+748	+8.6%
	セグメント利益	162	125	288	115	290	405	+117	+40.7%
	(対売上高率)	(3.9%)	(2.8%)	(3.3%)	(2.6%)	(5.9%)	(4.3%)		
	営業利益	157	137	294	110	290	400	+106	+35.9%
	(営業利益率)	(3.8%)	(3.1%)	(3.4%)	(2.4%)	(5.9%)	(4.3%)		
産業機械 事業	売上高	1,653	1,804	3,458	1,815	1,985	3,800	+342	+9.9%
	産業機械軸受	1,362	1,473	2,835	1,470	1,610	3,080	+245	+8.7%
	精機製品	292	332	623	345	375	720	+97	+15.5%
	セグメント利益	142	168	309	155	225	380	+71	+22.8%
	(対売上高率)	(8.6%)	(9.3%)	(8.9%)	(8.5%)	(11.3%)	(10.0%)		
自動車 事業	売上高	2,339	2,486	4,825	2,485	2,725	5,210	+385	+8.0%
	自動車軸受	1,245	1,351	2,596	1,385	1,565	2,950	+354	+13.6%
	自動車部品	1,094	1,135	2,230	1,100	1,160	2,260	+30	+1.4%
	セグメント利益	3	-50	-47	-50	50	0	+47	-
	(対売上高率)	(0.1%)	(-2.0%)	(-1.0%)	(-2.0%)	(1.8%)	(0.0%)		
	営業利益	3	-140	-138	-50	50	0	+138	-
	(対売上高率)	(0.1%)	(-5.6%)	(-2.9%)	(-2.0%)	(1.8%)	(0.0%)		
その他	売上高	295	302	597	340	345	685	+88	+14.7%
	営業利益	17	6	23	10	15	25	+2	+9.5%
	(対売上高率)	(5.7%)	(2.0%)	(3.8%)	(2.9%)	(4.3%)	(3.6%)		
売上高消去		-110	-119	-229	-140	-155	-295	-66	-
その他の営業損益/調整額		-4	104	100	-5	-	-5	-105	-

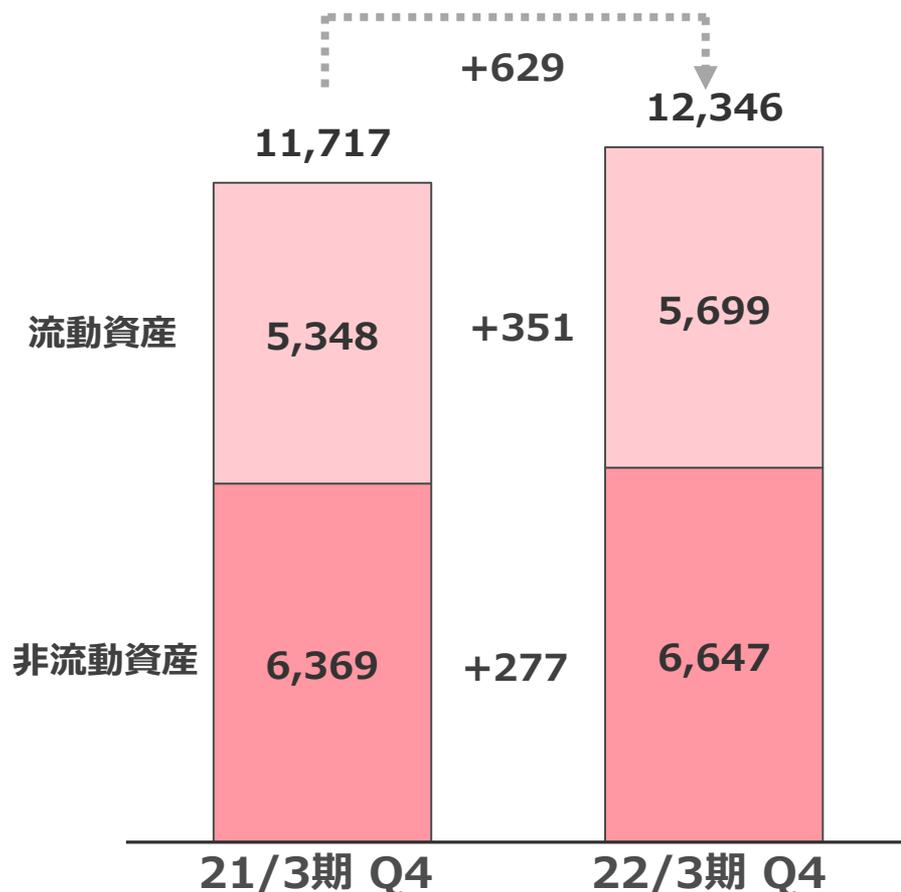
補足. 顧客地域別売上高 (22/3期)

(億円)	21/3期			22/3期			対前期	
	前半	後半	通期	前半	後半	通期	増減額	伸び率
売上高	3,159	4,317	7,476	4,178	4,474	8,652	+1,176	+15.7%
日本	1,127	1,631	2,758	1,568	1,608	3,176	+418	+15.2%
海外合計	2,032	2,686	4,718	2,610	2,866	5,476	+758	+16.1%
(海外比率)	(64.3%)	(62.2%)	(63.1%)	(62.5%)	(64.0%)	(63.3%)		
米州	467	611	1,078	604	647	1,251	+173	+16.0%
欧州	381	567	948	535	584	1,119	+171	+18.0%
中国	793	874	1,667	858	962	1,820	+154	+9.2%
その他アジア	391	634	1,025	613	672	1,285	+260	+25.4%
換算レート								
1USD	106.9	105.2	106.1	109.8	115.0	112.4	+6.3	+6.0%
1EUR	121.3	126.1	123.7	130.9	130.2	130.6	+6.9	+5.5%
1CNY	15.3	16.1	15.7	17.0	18.0	17.5	+1.8	+11.7%

補足. 財政状態 (22/3期)

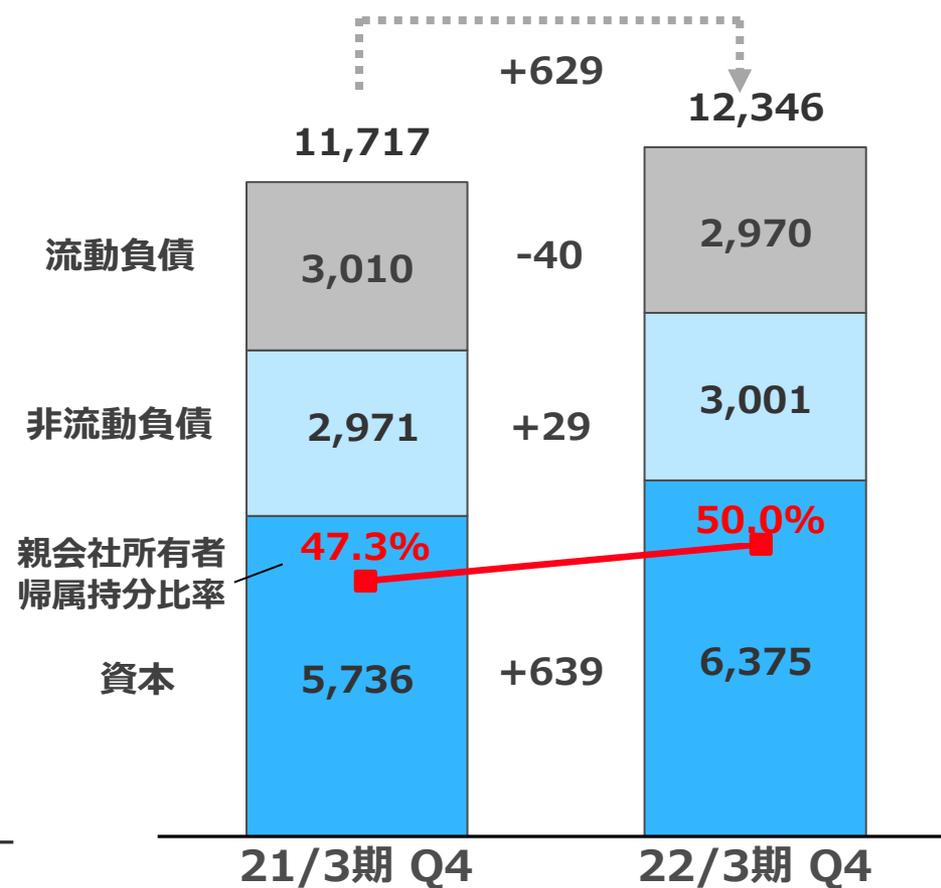
資産

(億円)



負債/資本

(億円)



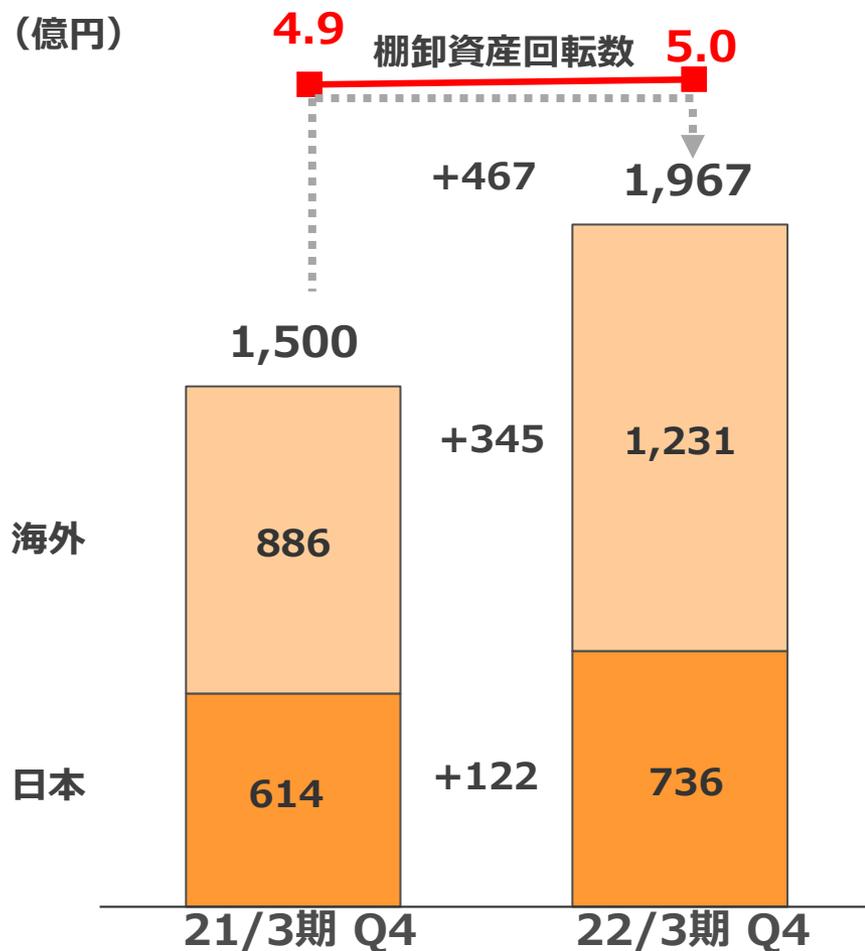
当連結会計年度の第3四半期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行ったため、21/3期Q4の資産および負債/資本にその修正が反映されております。

換算レート	21/3期Q4末	22/3期Q4末
1USD	110.7	122.4
1EUR	129.8	136.8
1CNY	16.9	19.3

補足. 棚卸資産/有利子負債 (22/3期)

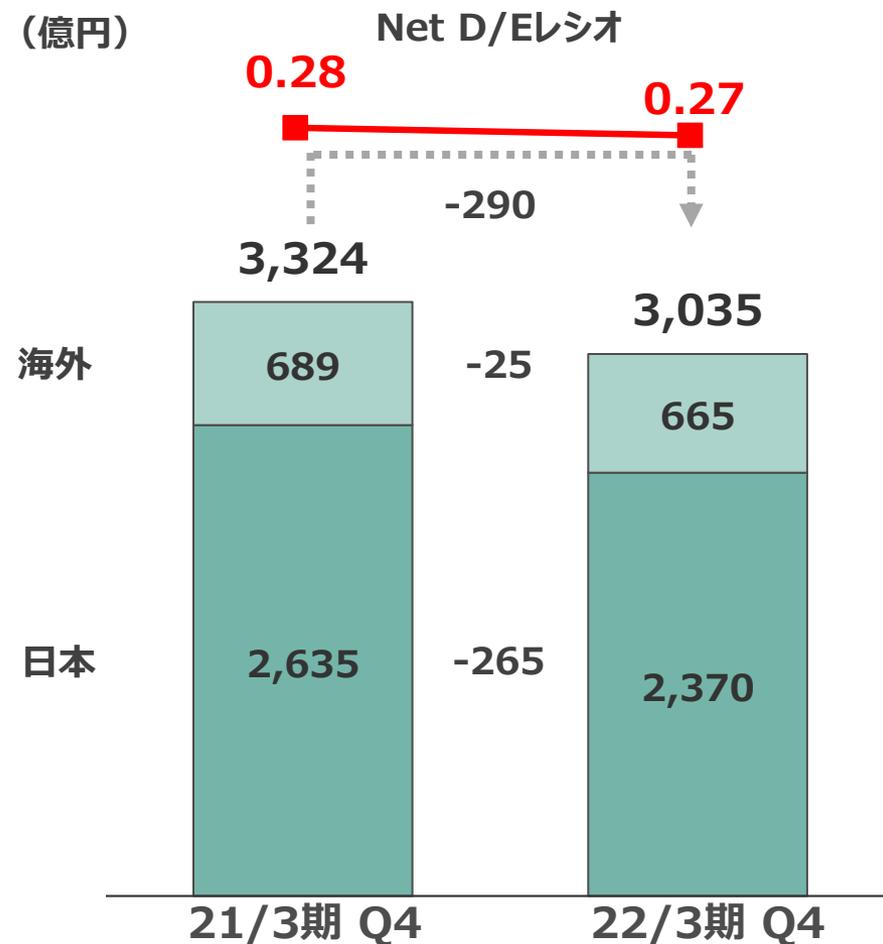
棚卸資産

(億円)



有利子負債

(億円)



換算レート	21/3期Q4末	22/3期Q4末
1USD	110.7	122.4
1EUR	129.8	136.8
1CNY	16.9	19.3

補足. 設備投資額/減価償却費/研究開発費

(億円)	21/3期	22/3期					23/3期
	実績 通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	予想 通期
設備投資額	373	52	136	119	216	523	700
設備投資額 (リース除く)	341	46	89	114	196	445	700
減価償却費	545	139	142	146	139	566	570
減価償却費 (リース除く)	500	128	130	134	127	518	520
研究開発費 (制度決算ベース)	168	44	50	52	46	192	200
(参考) 技術関連費用	286	74	77	79	78	308	320



NSKの企業理念

NSK は、MOTION & CONTROL™ を通じ、
円滑で安全な社会に貢献し、
地球環境の保全をめざすとともに、グローバルな活動によって、
国を越えた人と人の結びつきを強めます。

NSKビジョン2026

あたらしい動きをつくる。

あらたなライフスタイルを生み出し、笑顔あふれる 明日 を実現するための、
次の「動き」をつくる。

社会のニーズをいち早く発掘し、世界中の期待を超える、
誰も想像できなかった「動き」をカタチにする。

私たちが未来を動かしていく。